

「探知犬プロジェクト ～ヒアリ探知犬の育成と有用性～」

ドッグトレーナー専攻2年
秋山奈穂 中島琴音

<背景・課題・目的>

現在、特定外来生物「ヒアリ」の国内発生事例が2023年に100件を超えた。

ヒアリが日本国内に入ることで、下記のような問題点が懸念される。

- ・ 人的影響 : ヒアリは攻撃性が強く、毒針で人を刺すことがあり、体質によってはアナフィラキシーショックを引き起こす可能性がある。
- ・ 生態系への影響 : 在来種のアリの他にも節足動物や爬虫類、小型の哺乳類にも集団で攻撃する為、生態系が崩れる。
- ・ 農林水産業への影響 : 農産物や家畜を襲うため、品質が下がる、収穫量が減少する等の影響が懸念される。
- ・ インフラへの影響 : 電気設備に巣を作ることがある為、信号機や着陸灯など経済基盤を麻痺させる恐れがある。
- ・ 物流への影響 : ヒアリが発見されると、ヒアリ混入の疑いがある貨物についての検査の時間が増え、時間の遅れや移動制限などが出る可能性がある。

このことを受け、本プロジェクトで「ヒアリ探知犬」の研究を重ね、育成した。体長約2.5mm～6mm程しかない「ヒアリ」をより効率的かつ容易に見つけることを課題とし、本プロジェクトでは、犬の嗅覚を生かした「探知犬」の育成を通して、社会に貢献することを目的とした。またヒアリの実物個体サンプル提供にクリーンドクター 株式会社シー・アイ・シー様にご協力頂いた。

<目標>

ヒアリ探知犬がより多くの人へ周知されるような展示の作成。

ヒアリ探知犬が有用であることを知り、必要とされるような資料の提示。またヒアリ探知犬の普及を促す呼びかけ。

<方法>

(展示) 探知犬についての情報や育成に関しての内容を写真と実際に使用している道具と共に展示する。

(育成) クリーンドクター 株式会社シー・アイ・シー様のご協力でヒアリの死骸サンプルを頂き、一般社団法人全日本犬訓練士連合協会に訓練の指導を頂くことで、本プロジェクトでヒアリ探知犬を育成した。

<結果>

今回は本取り組み参加の全16頭のうち、嗅覚を用いたトレーニングで集中力に優れた3頭を選抜し実用性を確認した。また、環境省へヒアリ探知のトレーニングについて報告したところ動画の提出依頼を受け、実際のヒアリサンプルを嗅ぎ分ける様子を撮影し提出した。(2024年)その後も、多数の犬種でのヒアリ探知犬育成に成功した。

<展望>

ヒアリ探知犬を普及させることで、日本国内で定着する前に駆除、根絶させることにつながる。また、一般の方やヒアリを必要とする企業の方々へ発信することでヒアリ探知犬のみならず、日本国内での探知犬・使役犬の周知、普及へつながると考える。

<協力>

クリーンドクター 株式会社シー・アイ・シー

一般社団法人全日本犬訓練士連合協会 森脇和男氏